



大高建設株式会社



どじょう養殖実証実験

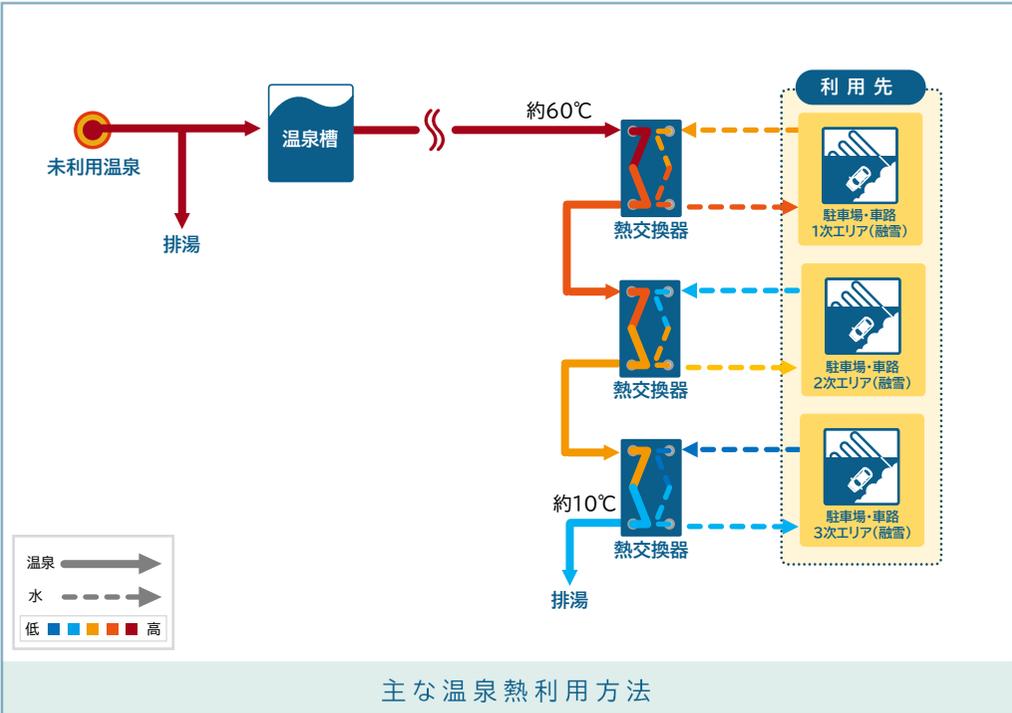


概要

近隣に所在する廃業した温泉旅館より、60～63℃の温泉(引湯)を、200m離れた大高建設駐車場まで引き込み、温泉熱を利用した融雪を実施している。引き込んだ温泉は、熱交換器にて不凍液と熱交換した後、駐車場へ敷設した配管にポンプで循環させることで、無散水融雪を行っている。



泉質	単純温泉	CO ₂ 排出量削減効果	エネルギーコスト削減効果
熱利用温度	63℃	219 t-CO ₂ /年相当	600 万円/年相当
利用温泉	既存温泉		
総事業費	3,600万円(一部補助金あり)	※1	※1



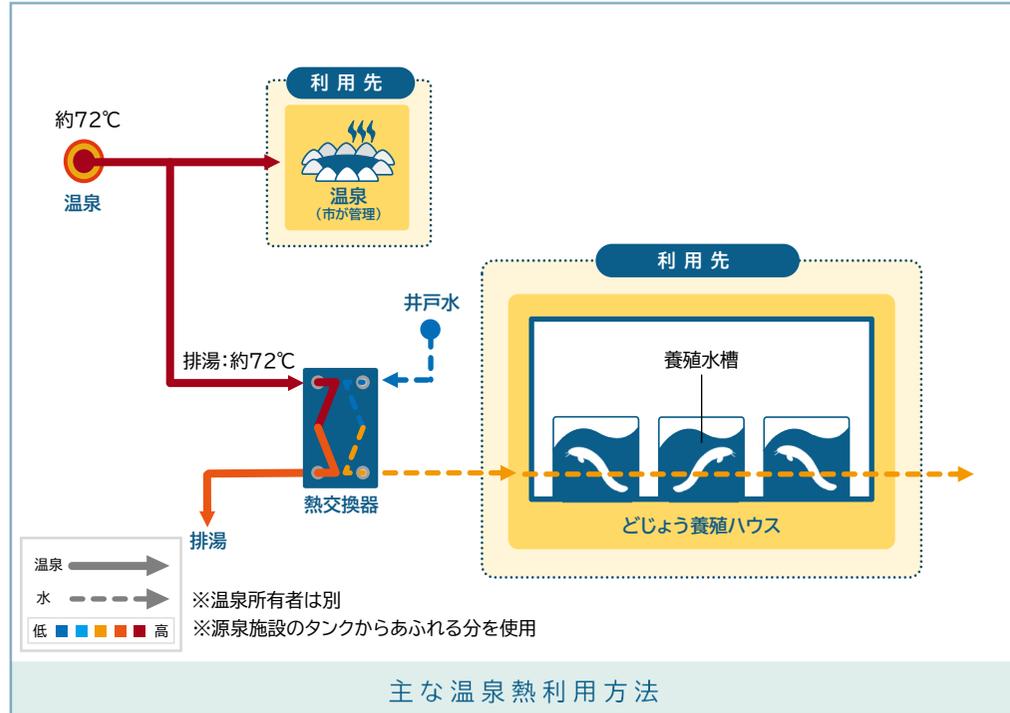
※ 本事例は「平成29年度・30年度温泉熱等の有効活用等普及促進調査等委託業務」にて調査・整理した事例です。
※ 1: CO₂排出量削減効果、エネルギーコスト削減効果は、ヒアリング結果を基に算出した推定値(重油使用量に換算した場合の効果)です。

概要

平成26年度に温泉熱の再利用を目的として、コンソーシアム(市、民間事業者、大学、旅館など)を立ち上げる。熱水を利用した温室ハウスや水産物の養殖を事業化する、ということで事業は終了した。しばらくした後、市の要望と合致する事業者が見つかり、どじょう養殖実証事業が始まった。能登島どじょうとしてブランド化や雇用創出、また地域の特産品として近隣宿泊施設で提供することを目指し取り組んでいる。



泉質	単純温泉	主な効果	能登島どじょうブランド化によるにぎわい創出
熱利用温度	72℃		・余剰温泉の活用
利用温泉	既存温泉		・地域の雇用創出
総事業費	-		・新たな特産品、地域ブランド化による産業振興
			・近隣旅館等への提供



※ 本事例は「令和2年度温泉熱等の有効活用等普及促進調査等委託業務」にて調査・整理した事例であり、掲載情報は調査当時のものであることから、詳細な状況は変更されている可能性があります。
※ 温泉熱利用に係る事業費等が不明のため、CO₂排出量削減効果、ランニングコスト削減効果は算出しておりません。